

令和3年9月7日

保護者 様

浦安市立日の出中学校
校長 鳩岡 和則

令和3年度第1回日の出中学校学校評価アンケート集計結果について

初秋の候 保護者の皆様には益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃より、本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

この度、7月に実施させていただきました「第1回学校評価アンケート」の集計結果を元に、先日「学校関係者評価委員会」を開催し、助言をいただきました。「今後の教育活動の方針や手立て」とあわせて、ご報告させていただきます。

1. アンケート回答結果についての考察（回答率：生徒：49.1%、保護者：55.0%）

令和3年度は、アンケートをWeb上で行う形式にしましたが、昨年度までのマークシート形式に比べ、保護者回答率で30%も下がってしまいました。今回はホームページへの掲載と、連絡メール配信で、回答率を上げたいと思います。同様に、生徒アンケートも50%程下がってしまいましたが、「学校評価アンケート」という、生徒にとって意識の高まらないことに対して自発的な行動に移せなかったことが原因と考えます。今回は、学校の端末で、クラスで時間を設け実施する予定です。

アンケートの回答率が約半数ということで、結果は参考値として見てください。

(1) 学校全体への満足度

- ・「学校生活の楽しさ」「入学してよかった」「自分のクラス」の項目について、生徒・保護者ともに90%以上の高い満足度を示しています。
- ・満足度が高まらないのは、保護者回答の「部活動の充実」です。これは、新型コロナウイルス感染症による活動制限の影響が表れていると思います。
- ・保護者の方の満足度が低く表れたのは、「いじめに関する項目」ですが、これは満足度だけを見た場合の結果であり、否定的な回答は、「未然防止や早期発見に努めている」は16%であり、「いじめに対し素早く対応している」は13%です。いじめに関する2項目とも、「わからない」の回答が多く、自分のお子さんが対象となっていない場合は、「わからない」と回答することになるかと思われ、いじめ問題は、個人情報問題もあり、認知されないことによるため、「わからない」の回答率が上がると考えられます。しかし、今後も「いじめへの対策の強化」とともに「いじめの防止等のための対策」をより周知してまいります。

【学校関係者評価委員の意見】

- アンケートの結果自体は、全体的に高い評価がでている。学校としてよい方向に進んでいると感じる。
- いじめに関しては、学校で起こった事例や対処を保護者に知らせるとよいかもしれない。
- いじめアンケートというものを実施していることを保護者に知らせるとともに、結果についても知らせたらどうか。
- 部活動の肯定率が高まらないのは、新型コロナウイルス感染症対策による制限が原因になっているのではないか。
- 部活動壮行会や、新入生歓迎会の部活動紹介を小学生に見せたら、加入率が上がるのではないか。

【今後の教育活動の方針や手立て】

- ・今後も、生徒並びに保護者の気持ちや考えを大切にすることを基本とし、生徒の声に耳を傾け、生徒の自己肯定感をより高めることができるよう、「受け入れ、寄り添い、認める心」を持って教育にあたります。
- ・いじめへの対応については、教職員の研修の実施、理解を深めるとともに、いじめに対する感性（発見・気付き）を高め、気になる言動を見逃すことなく、迅速かつ適切な指導・支援を行います。

(2) 教師の指導への満足度

- ・授業に対する満足度は、保護者、生徒ともに令和2年度平均より高い肯定率回答となり、教員が丁寧に授業を進めている姿勢が評価されたと思います。
- ・残念であるのは、「親身に相談にのってくれる」という項目が、保護者・生徒とも10ポイント近く下がってしまっていることです。指導は高く評価されているが、親身に相談にのってくれることは、別なこととして見ていることがわかりました。

【学校関係者評価委員の意見】

- 若い先生が多いので、生徒は親近感をもっており、いい先生しかいないと思っているのかもしれない。
- カウンセラーは全校の生徒と話すわけではないので、アンケート項目の肯定率が高まらないのかもしれない。

【今後の教育活動の方針や手立て】

- ・教職員が生徒のことを熱心に理解しようとする姿は、生徒・保護者に伝わるものと信じ、今後もその姿勢を崩さずに丁寧に指導を行います。
- ・親身に相談にのるということが、どのような状態を指すのかをもう一度学校全体で考え、より生徒・保護者に寄り添った対応に努めます。

(3) 学校生活全般に関する自己評価

- ・学習に対する取組みは、保護者・生徒に比べ、教職員の評価が96.6%もの肯定率を出したことに驚きました。
- ・「学校生活で力を出し切っているか」という質問に対し、三者とも80%程度の肯定率で回答しており、生徒は自身の取組みに自信をもっており、保護者、教職員もそれを認めている結果となり、良い方向に向いていると考えます。
- ・信頼し合える友達がいるかに関しては、保護者・生徒とも90%以上が肯定していますが、教職員は70%以下の肯定に留まっています。日常生活で起こる「生徒指導的課題」が教職員の肯定率を高めていないのではないかと考えます。
- ・家での役割についての項目がありますが、三者とも低い肯定率でした。今の中学生は、勉強に時間を割かなくてはならず、時間的に手が回らないのではないかと思います。

【学校関係者評価委員の意見】

- 家での手伝いに関する項目は、教職員の肯定率が低いですが、教職員は家庭内のことは見えな
いし、生徒も話をしないからではないか。教職員はイメージで回答しているところもある
と思う。
- 道徳の授業に、手伝いを題材としたものを入れてみてはどうか。
- 手伝いに対する価値観を伝えることは、アメリカでは当たり前だが、日本ではよく思われないとい
う国民性がある。
- 子どもに家での役割を与えることは必要だと思う。子どもには、いろいろなことを経験さ
せるとよいと考える。

【今後の教育活動の方針や手立て】

- ・生徒の「学習への取組み」を肯定的に評価していくことを、教職員が意識するようにし
ていきます。
- ・教職員のモチベーションが高い状態で維持され、その結果として保護者・生徒から熱心に
指導してくれるという評価につながり、生徒の学習への意欲にもつながり、学力も向上す
るという好循環に働いていくことを期待したいと思います。

(4) 「目指す生徒像」に対する自己評価

- ・目指す生徒像について、生徒・保護者の満足度に比べ、教職員の満足度は各項目で低く表
れ、「思いやる心」と「挨拶」の項目に、昨年度同様大きな差が見られました。
- ・「挨拶」に関しては、令和2年度に講演会で学校支援コーディネーターの方に話をしても
らい、生徒指導主事による挨拶講習会を全生徒対象で行いました。教職員と、生徒の挨拶
に対する認識のズレを埋めてきましたが、まだ、三者の求める姿に大きな差があるよう
に感じます。

【学校関係者評価委員の意見】

- 小学校のキャリア教育で、社会で大切なことは挨拶であることを話したら、6年生には響

いていたので、中学生も挨拶に対し考えているのではないかと。

○挨拶は、思春期が影響していると思う。小学校では挨拶をしているが、中学校ではとたんに挨拶をしなくなる子が多い。

○挨拶は国民性が大きい。

【今後の教育活動の方針や手立て】

- ・学校教育の根本に立ち返り、学校教育目標《豊かな心を持ち自立できる生徒の育成》を生徒とともに実現していくことを考えます。
- ・生徒と教職員との間で積極的なコミュニケーションをとり、対話することで、「自分では気付かない事柄に気付く」、そして「新たなものをつくりだす」ことを大切にします。ただし、声を上げれば全てが通るということではなく、年齢や立場にかかわらず、妥当な意見が通る学校をつくってまいります。
- ・挨拶に対する意識を高く持ち続けるには、新しい方法を取り入れなくてはならないと思いますので、生徒主体の活動として考えてまいります。

2. その他学校関係者評価委員の意見

○ICT機器の活用は広いが、今はまだ模索している時期だと思う。

○学校のネット環境を整備しなければ、活用できないと思う。学校の回線に5Gを入れたらどうか。ストレスなくPCやタブレットが動くと思う。

○企業では、ライン等のコミュニケーションツールが使われている。学校も一方通行の連絡メールから変化していくのではないかと。

○中学生が、大人になる頃には、仕事はフルリモートになるのではないかと。

○体育祭は、5月が絶対良い。安心・安全に開催できる。

○体育祭の種目は、精選し、午前中開催がよいと思う。

○Webアンケートは、自由記述の字数が多い人が結構いた。プリント回答だと、枠が決められているが、Webだと、無制限に書き込めてしまうからだと思う。

○学校評価アンケートに、いじめの項目は必要あるのか？というのが生徒の正直な気持ちだと思う。

○ノーチャイムは、よいと思う。社会に出たときチャイムは鳴らない。時間を意識する人間を育てることは必要である。

○ノーチャイム生活では、教職員が時間を守ることが重要になってくる。

○第2回アンケートは、回答率を上げることを目標にしなければならない。

○教員の働き方改革も考えなくてはならないと思う。